

第5回大分市長寿応援バス事業のあり方検討会 議事録（要旨）

1. 開催日時

令和6年5月15日（水） 14時00分～15時30分

2. 開催場所

大分市荷揚複合公共施設 荷揚別館6階 多目的大会議室

3. 出席者

14名（委員12名、代理2名）、事務局

4. 傍聴者

なし

5. 次第

1. 開会

2. 議事

報告（1）令和5年度の長寿応援バス利用実績について

（2）大分バスの長寿応援バス利用料金の変更について

議題（1）ICカード化に関するご意見について

① ICカード化に関する全体的なご意見とその他のご意見

② 各段階、項目ごとの手法等に関するご意見まとめ

（2）大分市長寿応援バス事業のあり方検討会 報告書（案）について

① 報告書（案）に趣旨を盛り込んだご意見

② 報告書（案）

3. その他

4. 閉会

6. 議事（意見要旨）

（報告1）令和5年度の長寿応援バス利用実績について

（報告2）大分バスの長寿応援バス利用料金の変更について

令和5年度長寿応援バス利用実績及び大分バスの利用料金を150円から180円に変更（5月1日～）したことについて事務局より報告

（質問なし）

（議題1）ICカード化に関するご意見について

第4回検討会でのご意見を追加し、ご意見のまとめについて事務局より説明

(委員)

「2 移行」の「(2) 移行期間の対応」のご意見まとめについて、「ＩＣカードの利便性が浸透するよう」という部分は、「一定期間は現金による支払も認める方が良い」という部分と連動していないように思う。不要ではないか。

(事務局)

現金を併用することにより、先にＩＣカードを利用している方からのロコミなどで利便性を知っていただくような場面を想定しているため、前段の記載を入れている。

(委員)

「4 利用」について、利用者がＩＣカードを忘れたり、チャージ不足だったりした場合も高齢者割引の適用が可能か。

(事務局)

移行期間中は、現行どおり長寿応援バス乗車証を提示し、現金で支払うこともできるし、ＩＣカードで支払もできることとなる。

(委員)

移行期間後はどうなるか。

(事務局)

移行期間が終了して、ＩＣカード払いに一本化された後は、ＩＣカードを忘れた場合は、通常料金を現金で支払うことになる。

(委員)

移行期間中に新たに乗車証を発行するかどうかという問題も残されている。

(事務局)

実際の切り替えの際の運用にはなってくるが、既にＩＣカードが使える状態になっているのであれば、現在の乗車証は新規発行しないということもあり得る。

(議題2) 大分市長寿応援バス事業のあり方検討会 報告書(案)について

報告書(案)を全文読み上げて説明

(委員)

「3. ＩＣカード化に向けた手法等の検討」の「(4) 利用について」の中で、「移行期間中に使い方やメリットについて丁寧な説明を行うことを前提に…」とあるが、具体的にどういう説明になるのか。

(事務局)

現時点で具体的に手法を決めてはいないが、ＩＣカードに移行することに抵抗がある方やＩＣカードの使い方慣れていない方に対して、バスでの支払方法やチャージの方法、買い物等にも利用できることをしっかりと説明するという意味合いである。

手法については、ご案内を送付するときに使い方のチラシを同封するといった

手法が考えられる。

(委員)

知り合いの80代後半～90代前半の人もバスを利用している。そういった方々にも丁寧な説明が必要かと思う。

私もバスによく乗るが、硬貨の支払いが大変。早くICカード化して欲しいと付け加えておく。

(委員)

「1. 本事業のICカード化を検討することとなった経緯」の部分で「バス事業者それぞれ個別のICカードが必要になる」といった、当時ICカードの導入を見送られた問題が書かれているが、これが解消されたことの記載がなく、ICカードの導入に繋がっていくことについては、どのように文面に入れるのがよいか気になった。

(事務局)

委員が指摘する部分については、これまで検討して来た手法の中で、第2回の検討会で報告させていただいた定期券方式を基に記載している。今後、仮にICカード化するにあたって、こうしたカードの2枚持ちといった課題は解決できる手法にしていきたいと思っている。現在、バス会社によって利用料金の額も違うので、そういった部分にも対応できるような手法を検討したいと考えている。記載については検討する。

(委員)

前回のICカード化が見送りになったひとつの原因として書かれているので、この部分はこれで良いと思うが、この部分をどう解決できたかを書き込んでいただきたいという趣旨なので、10カードの説明に加えればよいのではないか。以前検討していた定期券方式の手法についても補足を入れた方が良い。

(委員)

前回の課題が解決されたという記載があって、ICカードが導入できるということがあれば良い。

(委員)

以前検討していた定期券方式の手法についても、同じ箇所に補足を入れた方が良い。

(委員)

まとめの中の「相当なコストや時間を要すると見込まれる」という部分について、こちらのサイドから言えるものかどうなのか疑問に感じる。そこまで明確になっていないので、我々ではその判断は出来ない。市として、コストや時間について明確に記載した方が良いのでは。

(事務局)

現在、具体的な手法が定まっていないため、明確なコストや時間についてご説明

できていない。他都市の事例を参考にすることはできるが、都市の規模や手法によって経費も異なってくる。

また、時間に関していうと、前橋市のようなＩＣカードとマイナンバーカードを連携するような仕組みだと車載器の更新も必要になり、更新には数年かかると聞いている。ＩＯカード全てが使える仕組みや柔軟なメニュー設定が可能な仕組みを入れようとする、車載器更新後でないと実現ができないということで時間を要するということになる。

(委員)

この検討会では、コストや時間について十分な議論がなされていないこともあり、「見込まれる」の部分は我々で判断できないので、「コストや時間を考慮して」としてはどうか。

また、「２．ＩＣカード化の可否について」の「委員に意見を聴いたところ」を「意見が一致した」「意見がまとまった」というような書き方の工夫が必要。

(委員)

文章の表現について、気づいたところいくつか述べると、「２．ＩＣカード化の可否について」の「ＩＣカード化を進めていくことは賛成である」という表現は「ＩＣカード化を進めていくことに異論はない」としてはどうか。

「３．（１）事前手続きについて」の「手続きしやすく」は「手続きがしやすく」のように、「が」を入れた方がよい。

また、末尾の「適当である」は「適切である」の方がよい。

「３．（３）カードについて」の「そのカードを活用できる」も「ＩＯカードを活用できる」の方が分かりやすい。

「４．まとめ」の「結びに」は「最後に」や「結びとして」の方がよい。

また、「市全体の活性化につながることを念願する」は、この検討会の大きな視点としては高齢者福祉かと思うので、「市全体の活性化及び福祉の向上につながることを切望する」で良いのでは。

(委員)

ＩＣカード化の実施時期について、事務局としての考えと報告書に明記すべきなのかということをお聞きしたい。

(事務局)

スピードを重視するか、新しい発展性のある仕組みも同時に実現していく方がよいかという２点あるかと思うが、スピードを重視すると、発展性は後回しになる。現行の問題である２枚持ちの課題などを解消できる仕組みがあれば速やかな実施も可能と考える。

一方で、数年かけて、発展性のある仕組みを重視すると車載器の更新等も必要になるため、２年、３年かかってしまう。

事務局としてはどちらというのではなく、両睨みで検討したい。

(委員)

本検討会の設置趣旨は、正確な利用実績を取って適切な支払いをしていくという問題も考えていく必要がある。バス事業者としてはどのように考えているか。

(委員)

発展性を求めるのであれば、現行のシステムでは対応できないため、一定の時間が必要。

現行システムは平成22年に導入して13年以上経過しており、老朽化の問題を抱えている。車載器の一部の部品については製造終了しているものもあり、次世代型のシステム更新の必要性が発生している。

事業者としても、10カードを引き続き活用し、長寿応援バスのICカード化を実現するのが望ましいと思う。現在の事業者の課題としては、現行のシステムの課題があるので、長寿応援バスの発展的な機能を取り込んでいって、システムの更新を含めた課題解決を図ることが必要だと考えている。

(委員)

同様に車載器の変更が必要であり、多額の費用がかかるため自社だけですぐに解決できる問題ではない。補助をいただかなければ早期に実現することは難しい。

(委員)

新しい車載器に替えてからICカード化をする方が望ましいというご意見と理解してよいか。

(委員)

現行の中でも課題を解決できる手法があれば、先んじてICカード化を図ることは手段としてあり得ると思う。ただ、一方でICカード化の仕組みそのものを継続していくためには、次世代型のシステムにしていく必要があるが、発展性の前に今の仕組みそのものを維持するために何らか手を入れることも必要。新システムではないとICカード化ができないというわけではなく、事業を継続しようとすると、それ相応のコストがかかってくるので、そこに関しては皆様方のご理解が必要。

(委員)

現行のシステムの中でICカード化を進めていった場合、将来的に車載器更新した場合、もう1回、仕組みを再構築しなければならないのか。

(委員)

現行の仕組みを継承できる。

(委員)

検討会としては、早期にICカード導入した方がよいか、時間をかけて車載器の変更などを伴いながら新しい仕組みを導入していく方がよいか。

(委員)

せっかく検討会を開催して検討してきているのに、これが2年3年4年5年となると皆さんの熱意が通じなくなるのではないかと。現実に180円になり、現金の

用意が大変になっているので、少しでも早めにカードの利用が進められることを願っている。

(委員)

設備の更新には時間と労力とお金がかかる。スムーズにスピード感を持って行うためには事業者だけではなく、市や県、国からの補助が必要なのではないかと。

(事務局)

現在のICカードが導入された平成22年には、国、県、市の補助と事業者自らの負担で導入した経緯がある。現時点でその話が進んでいる訳ではないが、今回も同様の取組をすることは考えられる。

(委員)

車載器の更新については長寿応援バスだけの問題ではなく、都市交通全体の問題になるので、その機関で議論いただければと思う。

(委員)

検討会としては、可能な限り早く導入して欲しいということで良いと思うが、市としてのスケジュール感はどうなのか。

(事務局)

具体的にいつ導入しますというのは現時点では申し上げられないが、仮に、なるべく早く導入をというご意見がまとまり、その報告を受けた際には、それを前提に手法等を検討していくことを考えている。その場合であっても、ICカード全てを使うという仕組みはおそらく難しい。現状でいくとニモカ限定になるなど、報告書の中の一部を先に実施することになる。早ければ、来年度の予算を確保して実施していくことは考えられる。

(委員)

早ければ予算要求として来年度ということで、おそらく4月実施は難しいのではないかと、来年度中に実施するとしても遅い時期になる可能性はあるということ。

(委員)

うみたまごの魚のえさが足りない時にクラウドファンディングで呼びかけて、結構な費用が集まったことがあった。そういった呼びかけをしてみてはどうか。早期に実施することを公に示すという効果にもなる。

(委員)

検討会として強い意見を持って具体的に目途として、「何年先」と決めた方が良いでしょう。「何年度の導入を希望する」という表現でまとめても良いのでは。

(委員)

市議会だよりに長寿応援バス事業のあり方検討会に関する記載があった。その中で市長も「検討会をやっている、IC化を早めにやりたい」と書いていたと記憶している。個人的にはなるべく早く導入していただきたいと思う。

(委員)

意見をまとめると、より良いものにするために時間をかけてというよりは、できるところで当面やっていく、なるべく早い時期の実施に向けてという様に検討会としては考えているとまとめたいがそれで良いか。

(「良い」の声)

(委員)

具体的な実施時期を今の段階で明記することは難しいかと思うが、取捨選択をしながら、なるべく早い時期に可能なものから実施していくという報告書としたいが、事業者としてもよいか。

(全体)

良い。(特に意見なし)

(委員)

では、その方向で、今日出た意見を報告書に追記してまとめることとする。本日の議事での意見を受けての加筆修正は事務局と私に一任していただくことで良いか。

(全体)

良い。(特に意見なし)

(委員)

追加の意見が多かったため、修正案については書面審査という形で確認を取らせていただきたいと考えている。

その他 (今後のスケジュール)

(事務局)

本検討会の報告書の修正案については、会長と協議、作成した上で、修正案を改めて委員の皆様へ送付して、書面決議といった形で確認していただきたい。

その上で、報告書の修正案について委員の皆様から了承いただいた後、報告書を完成させ、6月に会長と副会長から、市長に検討結果の報告をしていただきたいと考えている。

以上